

伊勢の **今** を伝える

I S E B I T O N E W S

初夏号

第10号

いせびとニュース

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会
おかげ参り推進委員会
●発行部数 10万部
●企画・編集 伊勢文化舎
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3
TEL (0596) 23・5166 FAX (0596) 23・5241
E-mail otayori@isebito.com

10

新緑の杜で神様の衣を織る

上機殿では麻の布
下機殿では絹の布
トンカラリ トンカラリ…
萱葺の八尋殿から響くのは
神御衣を織る機の音



下機殿の八尋殿では和妙が織られている。 撮影／阪本博文



遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

神代に近い昔から

毎年、春と秋に行われる伊勢神宮の神御衣祭は、昔ながら手織り機で織り上げた真新しい和妙（絹と荒妙（麻）を大神様にお供えする祭りである。

この祭りは、伊勢神宮の最も重要な祭りとされる神嘗祭とともに、他のどの祭りよりも古くから行われてきた。新しい御料を大神にお供えし、神威を高めていただくという神祭りの根源にかかわる祭りといえよう。

松阪市の郊外に広がる平野の中に、こんもりと繁る二つの杜がある。東の方が絹を織る下機殿（神織機殿神社）、西は麻を織る上機殿（神麻統機殿神社）である。この一帯は「御糸」と呼ばれ、昔、紡績に関わる渡来の技術集団が住み着いたところといわれている。奉仕する織子たちは地元の人々で、これも昔からのしきたりだ。

五月一日、織り始めの神事、神御衣奉織始祭が行われる。織子一同が清めの祓いを受け、祭神に「清くうるわしく奉織できますように」と祈念する。その後、神社と並び建つ萱葺の八尋殿で織りが始まる。

十三日、無事織り上がったことを感謝する神御衣奉織鎮謝祭。

翌十四日、皇大神宮（内宮）において神御衣祭が行われる。正宮と荒祭宮それぞれに、織りたての和妙と荒妙がお供えされる。

春の神御衣祭 5月14日
秋の神御衣祭 10月14日

●問い合わせ 神宮司庁
☎0596・24・1111

●主な内容

2・3面 神様の衣を織る
4・6面 お白石持行事 近づく
7面 お白石持のまち（1）
8面 いせびと歳時記



下機殿の神御衣奉織始祭。地元に住む4人の織子と祝部(ほうり)が庭上で祈る。

撮影／阪本博文

衣・食・住、基本となる神々の御料は、自給自足を原則とする伊勢神宮。神様の衣和妙と荒妙も、春と秋に所管社で手織りする。緑の風の吹き抜ける八尋殿で織子たちが糸繰り・機織りにいそしむ。

織子の担う辛櫃(からひつ)には、絹糸とお供えの針が入っている。



下機殿と上機殿で和妙と荒妙

毎朝、身を清めて

毎年、田圃がさみどりになる五月、神様の衣の機織りは始まる。ところは、松阪市郊外の田園地帯。和妙(絹)織りは神服織機殿神社。地元では、下館さん、下機殿と呼んでいる神宮の所管社だ。一方、荒妙(麻)は神麻続機殿神社。上館さん、上機殿である。どちらも緑深い杜に囲まれて、神社と八尋殿織りの作業場と斎館が神域にたたずんでいる。五月一日、織り始めの神御衣奉織始祭が行われると、上・下の機殿で同時に織りが始まる。それぞれの斎館には神職一名が前日から十三日まで逗留し、毎朝、

織子たちをお清めし、毎夕、作業の進み具合を聞きとっては、日誌に記す。伊勢神宮では、年間に千五百回を数える祭りが行われている。三節祭(神嘗祭と六月・十二月の月次祭)や毎日行われる日別朝夕大御饌祭などもあるが、その中で、もともと起源が古いとされるのが神嘗祭とこの神御衣祭なのだ。大祭中の大祭、神宮式年遷宮は二十一年に一度を繰り返して、千三百年余りとなる。伊勢神宮の鎮座以来とされるこれら二つの祭りは、さらに古いということになる。しかも、この祭りが皇大神宮の正殿と第一別宮・荒祭宮でのみ行われる、というものはかの祭りにはない不思議さを漂わす。

和妙(絹)を織る

下機殿(松阪市大垣内)の織子たちは四名。東黒部に住む女性たちである。朝八時、まず和妙の守護神(天御杵命・天八千々姫)を祭る神社にお参りし、斎館で潔斎をして白衣白袴に着替え、神職に御塩で清めていただくから八尋殿に入り、仕事にとりかかる。材料となる絹糸は古くから愛知県三河地方で紡がれた「赤引きの糸」と呼ばれるものだ。前日から水にひたしておくのは、細い糸が切れないための用心。これを糸車で管に巻きとり、織りの準備を整える。



田圃の中、こんもりと緑の島のような下機殿の杜がある。

和妙[神服織機殿神社]



和妙(絹)の糸繰り。



外光で機を織る。



楠の薫る下機殿の朝。

荒妙[神麻続機殿神社]



荒妙(麻)の糸繰り。



荒妙の織子は男性4名。



静寂の神域に上機殿(左)と八尋殿(右)。



伊勢
名物

あふく

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) フリーダイヤル 0120-081381
<http://www.akafuku.co.jp/>



王朝ロマンの地、織物の工場……初夏の上機殿・下機殿周辺を訪ねよう

松阪木綿の唯一の織元を見学

あいぞめの館 御絲織物



松阪商人の富の基盤は「松阪木綿」。ここは、明治7年創業で、藍染から織りまで一貫して行っている。まちかど博物館として開放しており、製造の工程を見学できる。

園多気郡明和町養川甲373
☎0596・55・2217
※見学時は要予約。

“どんと花”が一面に

斎宮のハナショウブ群落

ハナショウブの原種「ノハナショウブ」(通称・どんと花)約1万1300株が群生している。6月上旬が見頃だ。国の天然記念物指定。



園多気郡明和町斎宮
「斎宮跡歴史ロマン広場」

平安時代の王朝絵巻を再現

斎王まつり

主役の斎王をはじめ総勢約120人が行列をなす「斎王群行」が見ものだ。



園6月1日(土)・2日(日)
園斎宮歴史博物館周辺
園斎王まつり実行委員会
☎0596・52・0054

謎に包まれた斎王の歴史を知る

斎宮歴史博物館



天皇の代わりに伊勢神宮に仕えた未婚の皇女・斎王が暮らした斎宮の跡地に建つ。館内では発掘調査で出土した土器や硯の展示をはじめ、映像や模型・パネルなどを使い、斎王の暮らしや祭祀のようすがわかりやすく解説されている。

園9時30分～17時 園月曜
園多気郡明和町竹川503
☎0596・52・3800

十二単の試着や平安の遊びを体験

いつきのみや歴史体験館



斎王をはじめ王朝人が繰り広げていた平安の遊びや生活文化を体験できる。十二単を着る平安装束体験や、蹴鞠などの古代の遊び体験など興味深いメニューがたくさん。建物の隣には、10分の1史跡全体模型もある。

園9時30分～17時 園月曜
園多気郡明和町斎宮3046番地25
☎0596・52・3890

「伊勢機織の里」といわれる下機殿と上機殿の周辺。田園風景ひろがるこの地は、平安時代には斎王の宮殿があった場所でもある。周辺に点在する見どころスポットをご紹介します。



機殿のある一帯は、かつて松阪木綿の主産地だった。織物ゆかりの地に建つ「伊勢機織の里」記念碑。

荒妙(麻)を織る

下機殿から三キロほど離れて、麻を織る上機殿(松阪市井口中町)がある。この辺りも古代から御糸郷とよばれ、江戸時代には松阪木綿の主産地となったところだ。

こちらの織子は、井口中町内の男性たち四名である。織子の仲間には現在十二名おり、順繰りに奉仕に当たる。昔は、上・下機殿ともに織子となるのは一家の未婚の長男と決まっていたという。最近では多くが農業から勤め人に転じ、

神様の衣を織る――、その技と心が松阪・御糸郷の人々に代々伝えられてゆく。

仕上がり幅は一尺五寸(約四十五センチ)、長さは四丈一尺五寸(約十三尺六十センチ)、機に取り付ける糸の長さは十四センチにもなり、その糸数は九千六百四十八本。細やかに

気をつかう仕事である。「手を荒らすと、とても糸には触れられませんよって」と織子たちは奉仕の期間に心してわが手をかばう。

奉仕のために長期の休暇を取るのには難しく、男女をとわず織子の高齢化は否めない。

麻糸は、梅の名所として知られる奈良県の月ヶ瀬産のものだ。麻糸は「一・二・三」の織維をフノリで織いである。麻のでき具合が悪い年は糸が切れやすく、また風の吹く乾燥した日も織りの作業は糸継ぎに手間がかかる。普通なら一週間ほどで織り上がるのだが、調子が悪いと、電気のない八尋殿のこと、ロウソクの明かりで夜遅くまで作業することもあるという。

織り上がった布は、神職の手に

辛櫃に和妙・荒妙を納めて

よりハサミを入れて機から外し、検尺。数日乾燥させ、再び巻き納め、神御衣奉織鎮謝祭を待つ。

五月十三日、両機殿神社に幣帛が奉られ、〈和妙〉と〈荒妙〉が無事に織り上がった感謝の祭りが行われる。つづいて、辛櫃に納められた神御衣は、内宮へ。昔、地元の人々は農作業を休んでこれを見送ったという。今年も織り始めの日、地元、機殿幼稚園と小学校の子供たちが先生に引率され行儀よく神事を見守っていた。歳月が培った神社との深い絆が感じられる光景であった。

五月十四日は、神御衣祭。正午、神職一同が、まず正宮で祭儀を行い、神御衣をお供えし、次いで、荒祭宮でも同様に厳粛な祭りが行われた。

(文・乾淳子)



神御衣祭の辛櫃には、織り上がった和妙と荒妙のほかに、縫い糸、縫い針などの御料も納められている。

明治13年(1880)、明治天皇の御聖断を仰ぎ、伊勢神宮の遥拝所として建てられたのが「東京皇大神宮遥拝殿」、いまの東京大神宮です。皇室の御祖神である天照大御神をまつり、国民の総氏神として仰がれる伊勢神宮(内宮)の御神徳を皇都東京にあまねく宣布し、都民の心のよりどころになるようにとの願いから創建され130年の歳月が流れました。「東京のお伊勢さま」東京大神宮は、いまも伊勢神宮と都民の心を結んでおります。



東京のお伊勢さま



東京大神宮

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-1
電話 (03) 3262-3566 FAX (03) 3261-4147
http://www.tokyodaijingu.or.jp/
JR総武線、地下鉄東西線・有楽町線・南北線・大江戸線「飯田橋駅」徒歩5分

お白石持行事、近づく



秋の遷宮に向けて、新しい御正殿の造営は最終段階。その御敷地に伊勢の旧神領民らが白い敷石を奉獻するお白石持行事が、七月末から一カ月余をかけて行われる。市内七十七の奉獻団では、本番に向けた準備が着々と進んでいる。

伊勢のお白石持

本番に向けた予行演習で
町民の心を一つに

試し曳

三月から六月にかけて、旧外宮領など陸曳の奉獻団は、地元で奉曳車の試し曳をする。奉獻当日にお白石を納める樽をしつかり荷締めし、飾り付けも本番と同じように施す。団員たちも揃いの法被を

二十四日に町内から上地町まで初曳した。川端町は、かつて参宮客が宮川を渡る手前の左岸に開けた街道筋の町。江戸時代は紀州藩領だったが、この漁師たちが宮川で捕った鮎を神宮にたびたび献上していたので、神宮から「天漁人」の名をいただき、右岸の旧神領民と同様にお木曳やお白石持をする誉れを得た。

「川端音頭」で綱を練る

八時四十五分、いよいよ出発。曳き手たちが持つ二本の綱の間に木遣り子たちが並び、木遣りを三本唄う。最後に「エンヤー！」と威勢の良い掛け声とともに綱が曳かれ、奉曳車が動き始めた。「ブオーン」というワン鳴りが高らかに響く。ワン鳴りは「十団十色」。多くの団が伝統の音色にこだわる。川端町でも初曳前に三、四本用意した車軸を取り替えたりヤスリをかけたたりしながら音色を調整してきた。奉曳車が生きているように感じるほど迫力あるワン鳴りは、そんな努力の賜物だ。

一行は、かつて茶屋や旅籠などが並んでいた熊野街道、伊勢本街道筋の住宅街を進む。時折、妻入りの家が残る古い街を抜け、のどかな田園地帯をゆく約二・三キロのコースだ。

各団のお白石持にはそれぞれの町の特徴が出る。日頃から女性が活躍している町の団は、女性や子



出発のとき。子供と青年の木遣り子が一体となって采をふり、天漁人たちの士気を高める。



休憩中は女性部の踊りが花を添える。



綱の練りでは老いも若きも童心に戻る。

奉獻までの道のり

- 1 結団式
- ▼
- 2 お白石拾い
- ▼
- 3 試し曳
- ▼
- 4 浜参宮
- ▼
- 5 本番

※2～4の順番は団によって異なります。



奉曳車に古い町並みがよく似合う。

ゆとりとやすらぎの宿
神宮会館
伊勢神宮崇敬会

内宮に一番近い宿・歩いて5分
どなたでもご利用いただけます



〒516-0025 伊勢市宇治中へ切町152
TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517

<http://www.jingukaikan.jp>

早朝参拝の
ご案内をしております。

商売繁盛
職務安全・出世開運
仕事は独創性とひら
めきが大切。疲れた
頭と心を癒します。

学力向上
合格祈願
(入学・就職・資格・国家)
現代社会は頭の時代。
受験・IT社会の守護神。

心の病気
頭の病気・ケガ
頭の神様の大きな
御神助を戴いて病気
快復。

頭之守護神 知恵の大神

頭之宮四方神社

三重県会都大紀町大内山

0598-72-2316

<http://www.koubenomiya.or.jp/>

頭の深(神)呼吸に
来ませんか

●「松原」よりJR線又は三重交通(南紀特急)
「大内山駅」下車徒歩10分
●紀勢自動車道 紀勢大内山ICより尾鷲方面へ車で5分
●「松原」からレンタカーが便利です。
いずれも、およそ50分。

伊勢がもつとも伊勢らしく 活気づく夏へ――

供の踊りに力が入っているし、繁華街にある団は奉曳車も華やかだ。川端町の場合は、伝統的な川端音頭に誘われて始まる綱の練りが見ものだ。川端音頭は天漁人の由来となった鮎漁を唄っており、「どんぶり こんぶり ざんぶり づんぶり 漁りつつ」などという節に合わせて二本の綱を上下に揺らす。唄い終わって木遣り子が采を地面に叩きつけると、曳き手たちは二本の綱を真ん中で合わせて押し合い、蛇行する川のように練る。笑顔と歓声が弾ける瞬間だ。

そのため後ろに出ている木を梃子で瞬時に動かしたり、尻木につなげた綱を力一杯引いたりして、車の角度を即座に変える。車の前方でも、曳き手たちが綱を曲がり角の外側に全力で引っ張り、車が道の真ん中で曲がるように努める。楽しい試し曳もこのときばかりはみな真剣。無事曲がりきった後は、ほっとした表情が広がる。

みなで力を合わせる喜び

道中、長い綱の前と後ろで一時的に動きが合わず、車が止まることも何度かあった。みんなで心を合わせなければ車は動かない。逆に言えば、町が一丸となる充実感こそお白石持の醍醐味なのだ。十一時四十五分、上地町の台地へのゆるやかな上り坂にさしかかる。「エンヤ、前、前、エンヤ、前、前」。進行係のリズミカルな掛け声がひととき高くなり、曳き手たちは力を入れて一気に上りきった。いよいよ城田神社近くの終着点へ。本番では、最後に勢いよく走るエンヤ曳を行う予定だが、初曳では整然と曳き終えた。「本番に向か



積み上げた樽をいかにしっかりと、かつ美しく縛るか。樽縛りも各団の伝統があり、練習を重ねている。

つて弾みがつきました」と松田团长。解散後、団員たちは全員で城田神社に参拝。本番の無事遂行を祈り、帰路についた。かつて神領民に課せられた使役だったお白石持は、いつしか町衆のハレの場となり、明治以降も志願して奉献団を結成。二十年毎の伝統行事として受け継がれてきた。旧神領民である伊勢の人々にとっては遷宮に奉仕できるとともに、同じ町の住民が共に綱を曳いて地域のつながりを深めるという二重の喜びがあるのだろう。



五十鈴川河口の一世町では、4月14日に試し曳を行った。お白石持は一般の祭と異なり、町の多くの人が曳き手として参加できるので、大いに盛り上がる。

(文・橋本義男)

伊勢のお白石持

お白石持を前に 二見浦で心身を清める

浜参宮

お白石持行事へ向けて、各奉献団が行う「浜参宮」。これは、お白石持行事に先立ち、心身を清める祓に当たる。四月から六月にかけての土日を中心に七十余団の奉献団が二見興玉神社へ浜参宮をする。

旅館街に木遣り唄びく

四月七日の初日は、十団が二見浦を訪れた。二十年に一度のハレの日とあって、木遣りや踊りなどで盛大に出発式を行い、旅館が建ち並ぶ夫婦岩表参道から神社まで歩く団がほとんどだ。

トップバッターは、二見浦茶屋清渚連だ。この団は、二見興玉神社の氏子として、年三回、夫婦岩に掛けられる大注連縄を木の奉曳



上／清き渚の二見浦へ、浜参宮。二見興玉神社の拝殿は海のすぐ近くにある。下／旅館街で道唄を披露する宮町奉献団。にぎやかな道中だ。



地元・二見浦茶屋清渚連の奉曳車がゆく。

車に載せて奉納しており、川曳団でありながら、奉曳車をもっている。出発式の後は、自慢の奉曳車にお白石をつめた樽を積んで旅館街を練り歩いた。

無垢塩草でお祓い

二見興玉神社の神域に入るとそれまでとは一転、厳かな空気に包まれる。波の音が聴こえる拝殿の中で、町民が肩を寄せ合い、無事奉献できるようにと祝詞と無垢塩草によるお祓いをうける。お祓いの後は奉献団による木遣りの奉納だ。「波の花咲く 二見浦で 心

を清めて 石を曳く」(常磐仲町奉献団)。白石奉献にのぞむ神領民の思いを唄った木遣りが拝殿に響き渡った。

浜参宮を終えた常磐仲町奉献団の参加者は「無事終えて、わが団の団結力の強さを改めて感じました」とほっとした表情。同団の女性踊り部として踊りを披露した大田明子さん、中村ひでこさんは「初披露だったので緊張しました。本番へ向けて、しっかりと調整していきたいです」と、晴れやかな笑顔でお白石持への意欲を語った。

(文・中川絵美子)

さわやかな潮風吹くなか
夫婦岩表参道に各町自慢の木遣り唄が響く。
二見興玉神社でのお祓いをすませ、
身も心も新たに本番へのぞむ――。



春の大祭・藻刈神社で刈り取ったアマモ(海草)を束ねた無垢塩草の幣でお祓い。

見ふ、遊ぶ、味わう……
平成のお伊勢参りを
体験しに
いっぺんきておくれない。

伊勢 内宮前
おかげ横丁
伊勢市宇治中之切町52番地
☎0596-23-8838 (おかげ横丁総合案内)
http://www.okageyokocho.co.jp/

おかげ横丁 催しもの
6月7日(9日)……夏まつり
6月上旬(中旬)……梅雨のおかげ横丁
6月29日(7月7日)……七夕の節句
7月27日・28日……横丁がみしばい大会

祝 第62回神宮式年遷宮

お多福とともに
岩戸屋は
今も昔も内宮前

金時生姜を使った
岩戸屋の生姜糖

鮮やかな赤色をした
金時生姜は、香りと
辛味が大変強い分、
美肌効果や花粉症
を抑える効果がある
といわれています。

伊勢・内宮前おはらい町
岩戸屋
TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322

PEARL BOUTIQUE
珠庵
TEL 0596-23-6750

伊勢の土産&ギフト
百福
TEL 0596-23-3236

http://www.iwatoya.co.jp

伊勢の
お白石持

こぶし大の白石を 宮川の河原へ拾い集めに

白石
お拾

新しい御敷地へ納めるお白石は昔から、神領民が宮川で拾い集めるのがならわしだ。神さまの庭石に見合うものを――。伊勢人としての誇りを胸に、大人も子どもも、町民総出で拾い集める。

清流・宮川の河原で

お白石持行事で、真新しい神殿の建つ御敷地に神領民が手ずから納める「お白石」。その白石は、昔から伊勢の西境を流れる清流・宮川の河原で神領民が拾い集めるのがならわしとなっている。内宮・外宮への奉獻へ向けて、必要となるのは、およそ二十〜三十万個のお白石だ。各町では、お白石を確保するために、町民総出で河原へ拾いに行ったり、各戸に「何個以上集めるように」とのお

知らせを出したり……と、早い団ではお白石持行事の数年も前からお白石集めに取り組んできた。江戸時代から旧神領では、「白石信心持」といって、自発的にお白石拾いに出かけたという。白い石はこの河原にもありそうだが、神さまの庭石に見合うように、決められた条件がいくつかある。長

一石二石、真心こめて

お白石持行事が近づくと、休日、宮川の河原で団旗を立てて、お白石拾いをする奉獻団の人々をよく見かけるようになる。河原で練り広げられる白石拾いの情景は、隣近所が誘い合わせてピクニックにきているように、のどかで楽しい。お白石の条件を年配者が子どもに教えながら、まるで宝探しの



お白石拾いの前に、氏神でお祓いをうける。



宮川中流域で行われた磯町奉獻団のお白石拾い。(平成23年11月20日撮影)



上／子どもたちもお白石拾い。こうして伊勢では幼いうちからお伊勢さんが身近な存在となる。左／みんなで拾い集めたお白石。

今夏はじまる お白石持行事の入門編

お白石
NOW

式年遷宮記念せんぐう館
企画展
『御白石持行事』
開催中／7月22日(月)

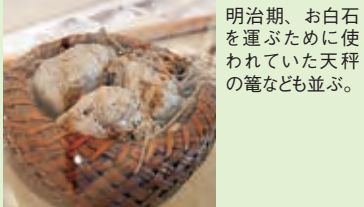
外宮・まがたま池畔にある「せんぐう館」では、現在、企画展『御白石持行事』を開催中だ。

式年遷宮の諸行事の中で、旧神領民と特別神領民(全国から集まった遷宮行事に奉仕する人々)が奉仕する行事には、お木曳行事・宇治橋渡始式・お白石持行事の三つがある。なかでもお白石持行事は、式年遷宮の完遂を目指す中でもっとも重要であり、真新しい社殿を間近に拝しながら自ら運んだお白石を奉獻できる神領民にとっても誇り高い行事だ。

今回の企画展では、前回、前々回のお白石持行事の写真パネルや、昭和四年度遷宮のお白石持行事の写真が印刷された絵葉書、町内で回覧されていた白石奉獻に臨むための注意書き、前々回のお白石奉獻のときに実際に使われた法被など、奉獻時の臨場感が伝わるものを中心に展示している。「神領民とお白石持行事の関わり」の深さを感じられる資料を集めました。まずはこの行事を身近に感じ、興味を持ってもらえれば」と学芸員の長谷川明輝さんは語る。

せんぐう館での企画展はお白石持行事の「入門編」。もっと詳しく歴史などを知りたい人向けには、七月九日(火)〜九月八日(日)に神宮徴古館で第六十二回神宮式年遷宮展「御白石」も開かれる予定だ。

なお、せんぐう館では、この企画展会期中、毎週土曜に職員による解説も行っている。詳細はせんぐう館ホームページ(<http://www.sengukan.jp>)で。



石を運ぶために使われていた天秤の箸なども並ぶ。

時間：9時〜16時30分(入館は16時まで) 休館日：第4火曜 入館料：一般300円、小・中学生100円 住所：伊勢市豊川町前野126-1(外宮域内) 電話：0596-22-6263

祝 第62回神宮式年遷宮



外宮さんと内宮さん、二つのお宮が永久に光輝く地で商いをさせていただく縁より「二光堂」と名づけました。



伊勢内宮前
三重県伊勢市内宮おはらい町
TEL 0596-224175
FAX 0596-242510

祝 第62回神宮式年遷宮



伊勢おはらい町
豆腐庵山中
伊勢市宇治中之切町95番地
電話 0596-23-5558 定休日/木曜

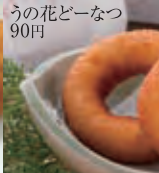
美しい五十鈴川の水を生かした
豆腐を作りたい



あんどうなつ 130円



「和妙」にぎたえ
水の良さを最大限
ひきたせるよう
作りあげた豆腐です。



うの花どーなつ
90円



コイン270円

うの花どーなつ
豆乳とおからを
練り込んだ
ヘルシードーナツです。

奉 献 団 の わがまち自慢

磯つつじ公園

4月下旬から5月初旬にかけて、赤、白、ピンク色の美しいツツジが咲き誇る。ツツジ以外にも桜や藤など20種類以上の花々が四季折々に楽しめる。



伊勢たくあん

かつて磯町内の6〜7割の家が作っていた。地元産の細長い御園大根を10日ほど天日干してから漬けるので風味と歯切れが良い。町内の奥山商店(☎0596-37-2255)では大根を自家栽培し、昔ながらの無添加無着色で作る。100g120円。



宮川の左岸堤防から磯町と川を望む。河口に近い堤防からはのどかな風景が広がり、朝日も美しい。



産土神の磯神社。こんもりとした鎮守の森に包まれている。

宮川左岸のほとりにたたずむ臨済宗妙心寺派の玉雲寺。



国道三三号から宮川の左岸に出、堤防沿いに河口方面へ進むと、ほとんど川幅が倍ほどに広がって、親戚なども含めて一戸で平均十人、町内で千七百人以上が参加します。あとは神宮や慶光院家の関係の方々ですね」と磯町慶光院

世帯数は百六十戸弱だが、お白石の参加者は二千五百人といふ。千三百年前から続く式年遷宮が戦国時代について途絶えたとき、社殿の荒廃に心を痛め、遷宮復興のため諸国を勧進したのが尼寺・慶光院の守悦、清順、周養の三代にわたる上人だった。

その貢献により、天正十三年(一五八五)に内宮の遷宮が百二十三年ぶりに行われると、慶光院は豊臣秀吉から磯村(現磯町)の白石を拝領する。外宮領でも内宮領でもない旧寺領の磯町は、お木曳の際に唯一、内宮御正殿の御扉木を奉曳する榮譽を今日まで受け継ぐことになった。宮川堤から内宮まで約九キロ、十四時間かけての奉曳は、そんな歴史に相応しい風格をたたえている。

町民の神宮と旧領主への敬慕は今も強い。毎年、磯神社や隣接する磯つつじ公園のツツジが見頃になると神宮の大宮司を招待して宴を開き、五月初旬には玉雲寺に慶光院本家を招いて法要を営む。

その縁により、お木曳やお白石奉献の際には神宮関係者や百人以上の慶光院家ゆかりの人々が全国から参加する。「気品よく統制のとれた慶光院曳をぜひ見ていただきたい」と奥山さん。栄えあるお白石奉献を心待ちにする磯町の人々は、一つの大きな「家族」のようでもある。(H)

奉 献 団 の わがまち自慢

島地屋餅店「さわ餅」

島地きよさん(78)・朗子さん(40)が毎朝つくたてで手作りしている。保存料は使わず、素朴で優しい味わいに長年のファンが多い。さわ餅155円。☎0596-28-0930



木下茶園「山菜おこわ」

お茶屋さんの隠れた名物。せいろで蒸す、手づくりの山菜おこわ(300円)と、赤飯(250円)の2種類がある。毎朝10時30分頃に炊きあがる。30食限定。☎0596-28-3789



小さくても、いまでも活発な交流がある商店街。観光地ではない、伊勢の「素顔」に出会えそう。(N)



「うらはし軽トラ市」(第3日曜開催)では、商店街が歩行者天国になる。



左／地元の鮮魚が揃う大田魚店。上／常磐仲町奉献団で副団長をつとめる中村雅美さん。

市内では最小の古い歴史をもつ奉献団だ。この奉献団では五十戸以上を商店主が占めており、ふだんからの協力体勢で培われた仲のよさが特徴だ。「商店街の振興組合がそのまま、奉献団の組織なので、結束力は強いですね」と中幸青果の店長であり、奉献団の副団長を務める中村雅美さん(49)は語る。

参宮街道、伊勢本街道、熊野街道からそれぞれ伊勢をめざした旅人は、宮川を越え、筋向橋で落ち合った。そんな交通の要衝にあるのが常磐町だ。小さな地区だが「常磐第一」「常磐仲町」「常磐西世古」「常磐表町」と四つの奉献団に分かれている。

なかでも浦之橋商店街がある常磐二丁目の住民で結成されるのが常磐仲町奉献団。戸数は約六十と

ら高柳通に接する東端まで、約三百軒に青果店、鮮魚店、生鮮食料品店など五十店以上が並ぶ。創業百年以上の店もあり、古い歴史をもつ商いのまちだ。

一方、商店街が休みの日曜を利用して、毎月第二日曜に「日曜市」、第三日曜に「軽トラ市」を開催するなど、新しい取り組みにも積極的だ。市は、鮮魚、干物、パン、花など二十店舗以上が並び、多くの人で賑わう名物市となっている。「衣食住のなかでも、『食』に関わる専門店が多くて、伊勢の人の生活に密着したまちです。浦之橋へ来たら、何でも揃うですよ」と大田魚店の大田不二さん(73)。この店には、地元の主婦だけでなく、レストランやホテルから食材を調達しにくる料理人も多い。「お客さんもみんな顔見知りです」と店主であり、団長を務める大田春彦さん(77)。客との長年の信頼関係が、安心で質の良い商品の提供にもつながっているのだろう。

お白石持のまち

4回シリーズ
第1回

お白石持は、伊勢の各町の歴史や気風を反映しながら、今日まで受け継がれてきた。代表的なお白石持の町を訪ね、奉献のあらましや町の見どころ、味どころなどを紹介する。



磯町から眺める宮川。大河の趣がある。

その2 常磐二丁目

ときわにちようめ

常磐仲町奉献団

内宮奉献 8月11日(日)
外宮奉献 8月30日(金)



伊 勢 文 化 舎 ・ 出 版 物 の ご 案 内



伊勢二千年ものがたり

神宮鎮座から現代まで、神都・伊勢の謎をひもとく、伊勢が気になる人のための必読書。

1262円+税 A5変型判128頁



伊勢のお木曳

神領民の心と技を伝える、お木曳のすべてがわかる本。全79奉曳団を完全収録。

1400円+税 B5判256頁



改訂版・検定お伊勢さん

伊勢の魅力と情報を詰め込んだ検定試験の公式テキストブック。これであなたも伊勢博士。伊勢商工会議所・伊勢文化舎【編集・発行】

1300円+税 A5判224頁



お伊勢さん 125社めぐり

伊勢神宮の摂社・末社など鎮座の由緒や周辺の歴史・文化を解説した、持って歩けるガイド。

1200円+税 A5判160頁



- ◆本社 伊勢市上地町2691-13
電話0596・23・1281(代)
☎0120-00-0707
- ◆本店(外宮前) 伊勢市本町13-7
電話0596・23・3141(代)
- ◆参宮楽膳 伊勢市上地町2691-51
伊勢問屋センター前
電話0596・20・3958(代)
- ◆内宮前店 伊勢市宇治中ノ切町87
電話0596・28・0081

E-mail info@sekiya.com
http://www.sekiya.com



外宮前に新本店を新築オープン！
食の神さま外宮さまの見守る前で
日々精進を重ねて参ります。

一階 店舗 午前九時～午後七時
二階 茶房「あそらの茶屋」 軽和食・喫茶「御願の朝かゆ」(朝のみ)
ギャラリ―
午前七時半～午後五時 年中無休

お問合せ・ご注文は

伊勢文化舎 TEL 0596-23-5166 E-mail isebitoya@isebito.com

いせびと歳時記

初夏の伊勢志摩のまつり・イベント情報

6月

1日 伊勢えび祭

海の幸への感謝と豊漁を願って行う祭り。巨大な伊勢えび神輿や、じゃこつべ踊りパレードなどが繰り広げられる。

開10時〜21時 志摩市浜島町 大気浜海岸周辺一帯
伊勢えび祭保存会 ☎0599・333330

1日 高柳の夜店

1、3、6、8のつく日と毎週土曜日にはたくさんの露店が並び、アシカショー（7／1）をはじめいろんなイベントが催される。

開17時〜
伊勢市 高柳商店街
高柳商店街街興組合 ☎0596・281101

7日 夏まつり

下駄や手ぬぐいなど、夏が待ち遠しくなる屋台や大道芸などで賑わう一足早い夏祭り。ゆかたのレンタル着付け（有料）もある。

開10時〜17時（催しによって異なる、8日（土）は20時まで）
伊勢市 おかげ横丁
おかげ横丁総会内 ☎0596・238838

8日 あじさい祭り

境内周辺にたくさんのおじさいの花が咲き乱れ、コンサートや物産販売などの催しとともに楽しめる。

開9時〜16時
志摩市大王町波切 大慈寺
開大慈寺 ☎0599・720089

6月上旬〜7月上旬 浅間祭

富士山に祀られている浅間神社を中心にした祭。南伊勢町各地区にある浅間山で行われ、万座浦や阿曾浦などでは化粧をした男たちが地区内を練り歩く。

開南伊勢町観光協会 ☎0599・661177
開南伊勢町観光協会



浅間祭

6月上旬 梅雨明け宣言

梅雨のおかげ横丁

雨の日を華やかに彩る約30種4000株のおじさいを展示販売する市（6月上旬）中旬）や番傘の無料貸し出し、てくてる坊主の飾りなどを楽しめる。

開10時〜17時 伊勢市 おかげ横丁
おかげ横丁総会内 ☎0596・238838

16日・17日 月次祭

皇室と国民の栄えと五穀豊穡を祈って行われる大祭。三節祭のひとつ。

開外宮奉幣16日12時、内宮奉幣17日12時
伊勢神宮外宮 内宮ほか伊勢市
伊勢神宮外宮 ☎0596・241111
開神宮司庁



月次祭

6月中旬 しょうぶフェスタ

約100品種、4万株のしょうぶが6月初旬から開花し、中旬に見頃となる。民話の駅神氏でつくられたお餅やおこわなども特価で販売される。

伊勢市二見町 二見しょうぶロマンの森
開民話の駅神氏 ☎0596・441000

21日 夏至祭

夏至の日の出とともに夫婦岩前で観を行う。毎年全国各地から多くの人が参加する。

開3時30分 伊勢市二見町、二見興玉神社
開二見興玉神社 ☎0596・432020

22日 赤崎祭

夏を呼ぶ鳥羽の代表的な祭り。たくさん露店が並び、涼しげなゆかた姿の人も多く「ゆかた祭」とも呼ばれている。この日、厄除けの杉の枝が売られる。

開10時 伊勢市 赤崎神社
開鳥羽市観光協会 ☎0599・253019

24日 桜木地蔵大祭

子育てや無病息災などで古来多くの信仰を集めてきた桜木地蔵の祭典。幸矢の授与があり、夜には盆踊りが行われる。

開6時〜21時
伊勢市 桜木町地蔵堂
伊勢市町地蔵堂公民館 ☎0596・241978

24日 伊雑宮御田植式

平安時代か鎌倉時代初めから受け継がれてきた日本三大御田植祭のひとつ。大団扇がついた忌竹を奪い合い、その後早乙女らによるお田植えが行われる。

開10時30分 志摩市磯部町 伊雑宮
開神宮司庁 ☎0596・241111

27日 朝熊岳開山忌

朝熊岳金剛證寺の再興に尽くした伝説の師（東岳文彦）の命日にちなんで開山堂では新仏像、奥の院では卒塔婆供養が行われ、毎年多くの人で賑わう。

開開山忌法要は29日10時
伊勢市 金剛證寺開山堂
開金剛證寺 ☎0596・221710

29日 御潜神事の再現

神宮へ納める髪・斗・鏡をつくるためのアワビを採取する神事を再現。磯着姿の海女たちが海に潜り、アワビ採りを行う。

開10時 伊勢市 鳥羽市国崎町 前の浜
開鳥羽市観光協会 ☎0599・253019

30日 夏越の大祓

蘇民将来の伝説に由来する茅の輪が本殿の前に作られ、参加者が「蘇民将来」を唱えながら3回輪をくぐって罪穢を祓う。

開15時 伊勢市二見町、二見興玉神社
開二見興玉神社 ☎0596・432020

7月

1日〜7日 セタまつり

おはらい町に大小の七夕笹が揺れる。短冊に願い事を書き、飾ることもできる。

開10時〜17時 伊勢市 おはらい町界隈
開伊勢市観光企画課 ☎0596・215565

6日 しろんご祭

白い磯着姿の海女がいつせいに海に潜り、アワビ捕りを競う祭り。「しろんご」とは島の守護神「白鬚大明神」の「白鬚」がなまったもの。

開7時〜11時30分 伊勢市 菅島・しろんご浜
開菅島旅館組合 ☎0599・342231

7日 柴燈大護摩

家内安全、豊作、豊漁を祈って7回護摩をたく。参道には露店が並び、1万人以上の人々で賑わう。

開7時 伊勢市 世帯寺
開世帯寺 ☎0596・286372

8日 潮かけ祭

790年以上続く奇祭。海の安全と大漁を祈り、海女や漁師たちが潮をかけ合う。

開10時 志摩市志摩町、和具漁港・大島
開潮かけ祭委員会 ☎0599・856551

13日 神宮式年遷宮奉祝

第61回伊勢神宮奉納全国花火大会。全国各地から選抜された花火師が参加する競技花火大会。

開19時25分〜21時15分予定 伊勢市 富川河畔
開伊勢市観光事業課 ☎0596・215566

14日 河崎天王祭

神輿やメロディ鼓隊、勢田川での中重金魚花火、夜店、河崎音頭など多彩なイベントで盛り上がる。

開夕方 伊勢市 河崎一帯
開伊勢河崎商人館 ☎0596・224810

14日 二見大祭しめなわ曳

夫婦岩に張り替える5本の大注連縄を奉曳車に載せ、木遣り唄や法螺貝の音に合わせて夫婦岩表参道を練り歩いて二見興玉神社に奉納する。

開18時〜21時
伊勢市二見町 JR二見駅 夫婦岩表参道
二見興玉神社
開表参道事務所 ☎0596・432363

14日 棒ねり

灯明がともる若宮神社の参道を、島の男たちが歌と太鼓に合わせて五色の飾りを両端につけた棒を回しながら、神社へ練り込む。（中之郷17時35分発の定期船に乗れば祭りの見学可能）

開17時30分〜19時
伊勢市 坂手島・若宮神社
開棒ねり奉賛会 ☎0599・257107

14日 相差天王くじら祭

十一面観音が鯨に乗って相差へあがったという伝説に因んだ祭。鯨みこしが町中を練り歩いた後、海へ入り、海上安全を祈願する。夜には夜店が並び花火もある。

開12時〜21時30分 伊勢市相差町
開相差町内会 ☎0599・216660

19日 鳥羽みなとまつり

海上一面を花火のように彩る水中花火をはじめとする鮮やかな花火を会場や船、宿泊施設などいろんな場所で見られる。

開18時〜21時（花火は20時）
伊勢市 鳥羽マリンターミナル周辺
開鳥羽みなとまつり実行委員会 ☎0599・251373



鳥羽みなとまつり

20日 渡鹿野天王祭

島内の民家が灯りを消すなかで八重垣神社の御神体が神輿に移され、島内を疾走する。海上花火が祭りを盛り上げる。

開18時30分
志摩市渡鹿野町 渡鹿野島 八重垣神社
開志摩市観光協会 ☎0599・460570

写真展「日本人のこころ」

第62回式年遷宮を迎える神宮の森の知られざる自然の美しさ・奥深さに迫る写真展。入場無料。

●常設（平成26年春頃まで）
開9時〜17時（最終入場は16時30分まで）
伊勢市 五十鈴庭（おはらい町通り・赤福本店横）
開（株）赤福 ☎0596・222154

新刊予告
7月下旬発行第六十二回 神宮式年遷宮記念出版
『お伊勢さんと遷宮』

地元出版社、8年間の取材の集大成——

伊勢文化舎では、平成17年の山口祭に始まった第62回神宮式年遷宮を、今日まで8年にわたり継続して取材してきました。来る7月末、集大成となる『お伊勢さんと遷宮』を出版します。遷宮への理解が深まる一冊です。

お問い合わせ・ご予約
伊勢文化舎 0596・23・5166 までA5変型判
144頁
1,300円＋税

芭蕉句碑



伊勢ICループ植樹

遷宮を詠んだ芭蕉句碑を建立

秋の遷宮を見据えて整備が進んでいる伊勢市駅前広場に4月14日、芭蕉句碑が建立された。

句は「たふとさに みなおしあひぬ
御遷宮」。元禄2年（1689）に「奥の細道」紀行を岐阜県大垣市で結んだ芭蕉は、その後伊勢を訪れ、第46回式年遷宮が行われている外宮を参拝、その際詠んだ句で、遷宮の賑わいをいきいきと伝えている。

芭蕉は生涯に伊勢を6回訪れ、22句を詠

伊勢の町は二十年ぶりのお白石持行事を目前に盛り上がりつつあります。編集室もニュースの取材・編集に加え、八年間の遷宮取材を集大成したムック本『お伊勢さんと遷宮』（七月発行）の編集追込み中。地元ならではの視点と内容にご期待下さい。

伊勢文化舎代表 中村 賢一

●データは5月1日現在、まつり・イベントは主催者側の都合により、変更になる場合があります。お出かけの際はあらかじめ電話でご確認ください。

◆訂正とお詫び
9号の「いせびと歳時記」で紹介した猿田彦神社の御田祭の日程が誤っていました。5月5日（祝）に訂正し、お詫びいたします。

ゆったり、のんびり、想ひ出いっしょに印す、お伊勢さん。

近鉄特急と朱印帳をお得にセット

伊勢の神宮 正宮 別宮 おかげ参り

ご朱印巡りきっぷ

関西発 6,300円 東海発 5,600円 ※ともに大人用のみ発売
(大阪・京都・奈良 府県下から) (愛知・三重県下から)

◎発売期間：平成25年9月27日(金)まで

※乗車開始当日はお求めになれません。

◎ご利用期間：平成25年9月30日(月)まで

※ただし、ご購入日の翌日以降に限りです。

◎有効期間：ご利用期間中で乗車開始日から3日間

お求め 関西発 大阪難波、大阪上本町、大阪阿部野橋、京都、大和西大寺、橿原神宮前、名張の各駅営業所
東海発 近鉄名古屋、近鉄四日市、津、名張の各駅営業所

ご朱印巡りきっぷについての詳しい情報は 近鉄 きっぷの情報 検索 旅客案内テレフォンセンター(8時〜21時)年中無休 大阪06-6771-3105 / 名古屋052-561-1604

近畿日本ツーリスト・JTBC・日本旅行各グループ、
東海発とも 農協観光の主要支店・営業所近畿日本鉄道公式Facebookページでも、
近鉄沿線の旬な情報をご紹介します。

近鉄